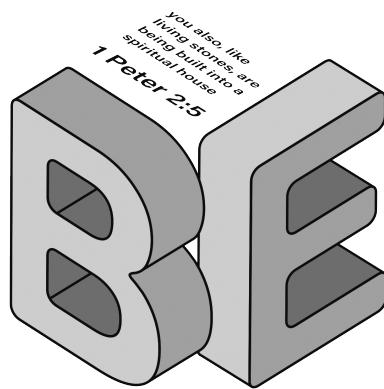


YOUTH MANNA



あなたがた自身も生ける石として靈の家に築き上げられ、神に喜ばれる靈のいにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

(ペテロの手紙第一 2章42節)

<p>2026/1/22(木)</p> <p>Ⅰ テサロニケ 1章</p> <p>●どうしてパウロはテサロニケの教会の人たちについて感謝しているのかな？3節</p> <p>●テサロニケの人たちはマケドニアとアカイアにいるすべての信者の何になったかな？7節</p> <p>この箇所は、迫害がひどい時代に信仰に入ったテサロニケに、パウロが送った手紙の最初の箇所だよ。パウロはテサロニケに1ヶ月しか入れなかったから心配してたんだ。だけどテサロニケの人たちは聖靈によって福音を確信していたよ。それによって偶像から立ち返って、最後は他の地域の模範になったんだ。私たちも8節の響き渡るために模範になりたいよね。完璧は無理だけど、模範になるためにはどんなことができるか考えてみよう！</p>	<p>2026/1/19(月)</p> <p>民数記 11:1-15</p>	<p>2026/1/20(火)</p> <p>民数記 11:16-35</p>	<p>2026/1/21(水)</p> <p>民数記 12章</p>
	<p>●主の山を旅立ってまだそれほど経たないうちに、民は神様に対して不平を言った。恵みを忘れ、欲に駆られて生きる姿がどのようなものかをこの箇所は僕たちに教えているね。君にとっては何が罪の誘惑となるだろうか？</p> <p>●モーセは民の身勝手な不満と、神様の怒りの間で板挟みになり、とても辛い思いになったようだね。モーセがどれほど素直に自分の心を注ぎ出しているかに注目しよう。神様が全てを受け止め聞いてくださる方でことに信頼していなければ、このような祈りはできない。</p> <p>▶心の中で押し込めてる思いはないだろうか？率直に祈ってみよう。</p>	<p>●民全体の重荷を負うことに耐えられなくなったモーセの叫びを聞いて、神様は長老七十人に靈を分け与えられた。29節のモーセのことばに注目しよう。このことは使徒2:4で成就し、今もイエスを信じるすべての人の内に注がれているんだ。これがどれだけすごいことか考えてみよう！聖靈を受け入れる祈りをしよう！</p> <p>●神様は驚くような方法で民に肉を与えたけれど、それでも民は神様に心を向けて悔い改めることもせず、自分たちの欲望を手放すことはしなかった（詩篇78:30）。そのため多くの民が疫病で打たれることになったんだ。神様の御心から外れて欲望を第一として歩む結果がどのようなものであるかを心に留めよう。今自分が神様に感謝すべきことに目を向けてみよう。</p>	<p>モーセには兄アロンと、姉ミリアムがいて、共に主に仕えていたけれど、この二人がモーセを非難したと書かれている。2節の彼らのことばから、彼らの心には妬みがあったことが想像できるね。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分を理解し支えてくれるはすの人が、自分を攻撃した時の痛みはどのようなものか想像してみよう。同じような経験はあるだろうか？ ・その時モーセはどうしただろう？ ・モーセの柔軟さから学ぶことは何だろうか？人との関係、神様との関係において、自分が学んで実行すべきことは？
	<p>2026/1/23(金)</p> <p>Ⅰ テサロニケ 2:1-12</p>	<p>2026/1/24(土)</p> <p>Ⅰ テサロニケ 2:13-20</p>	<p>2026/1/25(日)</p> <p>Ⅰ テサロニケ 3章</p>
	<p>●7-8vでパウロは母親のようにテサロニケの人たちに接した、とあるね。どんな風に接したと書いてあるかな？</p> <p>●11-12vで今度は、父親のように接したとある。父親のような役割とは何と書いてあるかな？</p> <p>●僕らは関係の中で生きている。誰にも会わず、関わらないで生きれる人はいない。そういう時、パウロの関わりはとても大切なヒントになるね。母と父の両面の関わりが大事なんだ。関係を作り育てる人になろう！</p>	<p>今日の箇所を読むと、テサロニケの教会の人々がパウロを通して語られたことを神様のことばとして聞いて、実際の生活でも実践していたことが分かるね。</p> <p>みことばをただの知識ではなくて、信仰によって受け取る時に、神様ご自身も私たちのうちに豊かに働かれるんだ。</p> <p>テサロニケの教会の人たちは、信仰のゆえに苦しみにあったけど、それでもみことばに従い続けたことを神様は喜ばれた。</p> <p>今日のテサロニケの教会の人たちから何を学んで、何を実践するかな？考えてみよう！</p>	<p>パウロは迫害の中でも自分の苦しみより、テサロニケの信徒たちの信仰を案じ、耐えきれずテモテを遣わしました。それは、苦難の中で信仰が揺らがないよう励まし、教会を支えるためでした。良い報告を聞いたパウロは大きな慰めを受け、成長が神様のあわれみによるこことを感謝します。また同時に、さらに愛が増し、主の再臨の日に聖く立てるよう祈り続けました。</p> <p>信仰は一人でなく、互いに支え合い、祈り合う中で育まれます。私たちも支え合い、祈り合って成長していきましょう。</p>